

# ノーコードでの中小企業DXを実現。フラグシップとなるメンター企業の育成を通して地域内の中小企業同士がDX教育をし合うエコシステムの構築

採択事業者名

株式会社セラピア

コンソーシアム構成員

バキュームモールド工業株式会社(実装PJメンバー)、株式会社ユタカ(実装PJサポート)

## 勉強会の実施概要

勉強会の目的	ものづくり中小企業においてどのようにDXを推進し、事業上の成果を出しているのかという点について、事例共有を行うことで、愛媛県内の中小製造業の皆様DXの可能性を身近に感じていただき、関心を持つきっかけを創ること。
勉強会の当初のゴール想定と結果	【ゴール想定】ものづくりDXに取り組む3社のデジタル化の実装による成果を共有することで、実装企業とデジタル化に取り組むきっかけを作ること。 【結果】100名を超える参加者に参加いただ木、DXに取り組むきっかけやオプションを提供することができた。
参加者	2023年12月16日、及び2024年2月26日の2回、勉強会を開催し併せて100名を超える中小製造企業やメディア、銀行の方にご参加いただいた。
協議アジェンダ	ものづくりDX勉強会は、協議ではなく実装内容を共有することを目的とした。

## ものづくりDX勉強会アジェンダ (2024年2月26日@アイテムえひめ)

### DX事例紹介 01

- 株式会社ユタカのご紹介
- 株式会社セラピアの取組み紹介

### DX事例紹介 02

- 有限会社佐々木組のご紹介
- 株式会社ディースピリットの取組み紹介

### 休憩 (10分)

### DX事例紹介 03

- ツウテック株式会社のご紹介
- 港産業株式会社のご紹介

### 補助金について

### 質疑応答

### 意見交換



一人ひとりのスキル向上により現場の業務効率が大幅に向上



中小企業が取り組むスマート工場化の事例(DXとAGVと協働ロボットの導入)



協働ロボットがもたらす生産性向上と人手不足の解消

編集データの抜粋やビジュアルなどを適宜挿入



## データ活用・協議の具体例

重要指標例

- 以下の2つを本実装事業の重要指標と位置付けている。
- 1:現場の従業員が作成したプロダクト種類
  - 2:そのプロダクトによる業務改善効果

株式会社ユタカ様の現場の従業員が自ら考えて作成したプロダクトがもたらした成果を県内の製造業の方々に共有した。共有されたアプリの一部は以下の通り。

### NG情報と処理の変化量を見るアプリ

#### 【アプリ制作前の課題】

- 紙媒体での保存している=印刷の手間・紙の無駄
- NGデータが一元管理されていない=データを活用しづらい

#### 【自作アプリによる成果】

- 紙の削減に加え、検索が可能になった為確認がスピーディーに!
- 画像の掲載がしやすくなり情報の内容が充実
- 材質や処理業者による変化量の違いが細かく記録できる場所が出来た

#### 【今後の課題】

- DXによる有効性を評価してアピールすること
- 使用していくための仕組みづくりが必要

### ユタカ知恵袋アプリ (工場間/部署間で質問し合えるアプリ)

#### 【アプリ制作前の課題】

- 他工場や他部署同士のコミュニケーションが取りづらい
- 知識や技術を蓄積する場所がなかった=データがなかった

#### 【自作アプリによる成果】

- 部署間で質問がしやすくなった
- 社内のノウハウがデータ化されるようになった

#### 【現在の課題】

- 他工場と他部署の方々にさらに巻き込んでいくことが必要

## データ活用・協議による成果

- 【これまで】現場に課題があっても自ら解決することが難しかった。  
【実装成果】現場の従業員が自らアプリを制作し、身近な課題を解決できるようになった。また、上司がアプリ技術の習得者にアプリ制作を相談する動きが随所で見られるようになった(=社内文化に変化が起こった)。

